

第一次佐賀市総合計画

基本計画

[後期基本計画]

Saga City
Master Plan



[第4部] 重点プロジェクト

2005年10月1日に佐賀市、諸富町、大和町、富士町、三瀬村の1市3町1村が合併し、また、2007年10月1日には川副町、東与賀町、久保田町と合併して誕生した本市は、その合併協議の中で、市政運営の基本方針を定めた新市建設計画及び合併新市基本計画を策定しました。

これらの計画では、合併効果を期待するとともに、新市の速やかな一体化を促進し、地域全体の均衡ある発展と地域住民の福祉向上を図るため、重点プロジェクトを示しています。

第一次佐賀市総合計画については、これらの計画を尊重し策定することとしており、そういった趣旨を踏まえて、以下の5つのプロジェクトに重点を置いた施策を展開していきます。

第1章 | 森と湖に囲まれた交流と滞在のまちづくり

■ プロジェクトの目的

農林業の従事者が多く、地形的に企業誘致も難しい中山間地域においてにぎわいを生み出し、地域の経済を活性化するためには、観光レジャー、都市農山村交流といった多様なチャンネルで交流人口を増やすことが有効と考えられます。

本市の北部に位置する脊振山系山麓一帯は、北部九州でも指折りの豊かな自然環境を有し、スキー場やゴルフ場、古湯温泉と熊の川温泉といった歴史ある温泉地など多様な地域資源を擁しています。また、人口140万人超の福岡市の中心部から車で1時間以内に到達できる好条件にあります。

そこで、隣接する福岡市及び市中心部の都市住民を主なターゲットとして、豊かな自然や農山村とのふれあいを気軽に体験でき、心身ともに“健康”を回復することのできる地域づくりを行うことによって、交流人口の増加を図り、商業、サービス業や、農林産品の消費拡大を通じた地域の活性化と、長期的な定住人口の増加につなげます。

■ プロジェクトの方針

● 古湯・熊の川もてなしの温泉郷づくり

山麓ゾーンは、福岡市及び本市の中心部からの近さが利点である半面、入り込み客のレジャー行動は日帰りが主体となっており、宿泊を伴う滞在エリアとしての認知度は決して高くありません。そこで、温泉地の保養地としてのサービス充実やイメージ向上など、宿泊を伴う滞在エリアとしての魅力づくりを支援します。

● 三瀬温泉いやしの郷づくり

三瀬温泉やまびこの湯周辺には、やまびこ交流館やふれあい農園、炭焼き体験施設などが整備されています。これらの施設を中心とする三瀬温泉いやしの郷のさらなる充実により、都市に暮らす人々がまちの雑踏から離れ、大自然の中で心身のリフレッシュを図ることができるいやし空間の整備を進めます。

●アウトドアスポーツ拠点エリアづくり

スキー、ゴルフ、テニスなどのアウトドアスポーツや、本地域の豊かな自然を生かした、自然とのふれあいが楽しめるレジャー拠点の整備を進めることにより、若者、ファミリー、中高年など多様な層にとって魅力的な滞在空間を創出します。

●グリーンツーリズムの推進

自然志向・健康志向の高まりとともに、農山村で余暇を過ごすグリーンツーリズムへのニーズは、今後も増大することが予測されます。そこで山麓地域にグリーンツーリズム・スローライフ体験推進地区を指定して、組織的な取り組みによる事業化を支援し、農産物・特産品のブランド化を図ります。

また、福岡都市圏や市内の小中学生が、民家に投宿したり、キャンプをして自然の体験学習ができるような環境整備を推進します。

●北山湖周辺道路交通網の整備

豊かな観光資源を持つ山麓ゾーンへ自家用車での来訪が便利になるように、国道263号、県道富士三瀬線、県道三瀬栗並線などの道路交通網の整備や誘導標識の充実を図ります。

また、誰もが気楽にドライブを楽しめるよう、山麓ゾーンの観光地、保養地、レジャースポットなどの観光ルートを整備します。

●宿泊機能の充実

地域内の観光レジャーや農山村交流を推進する取り組みと連動して、短期から中長期まで多様な宿泊ニーズに対応できる宿泊機能の整備を進め、滞在型の交流人口の増加を図ります。

●季節居住・定住の促進

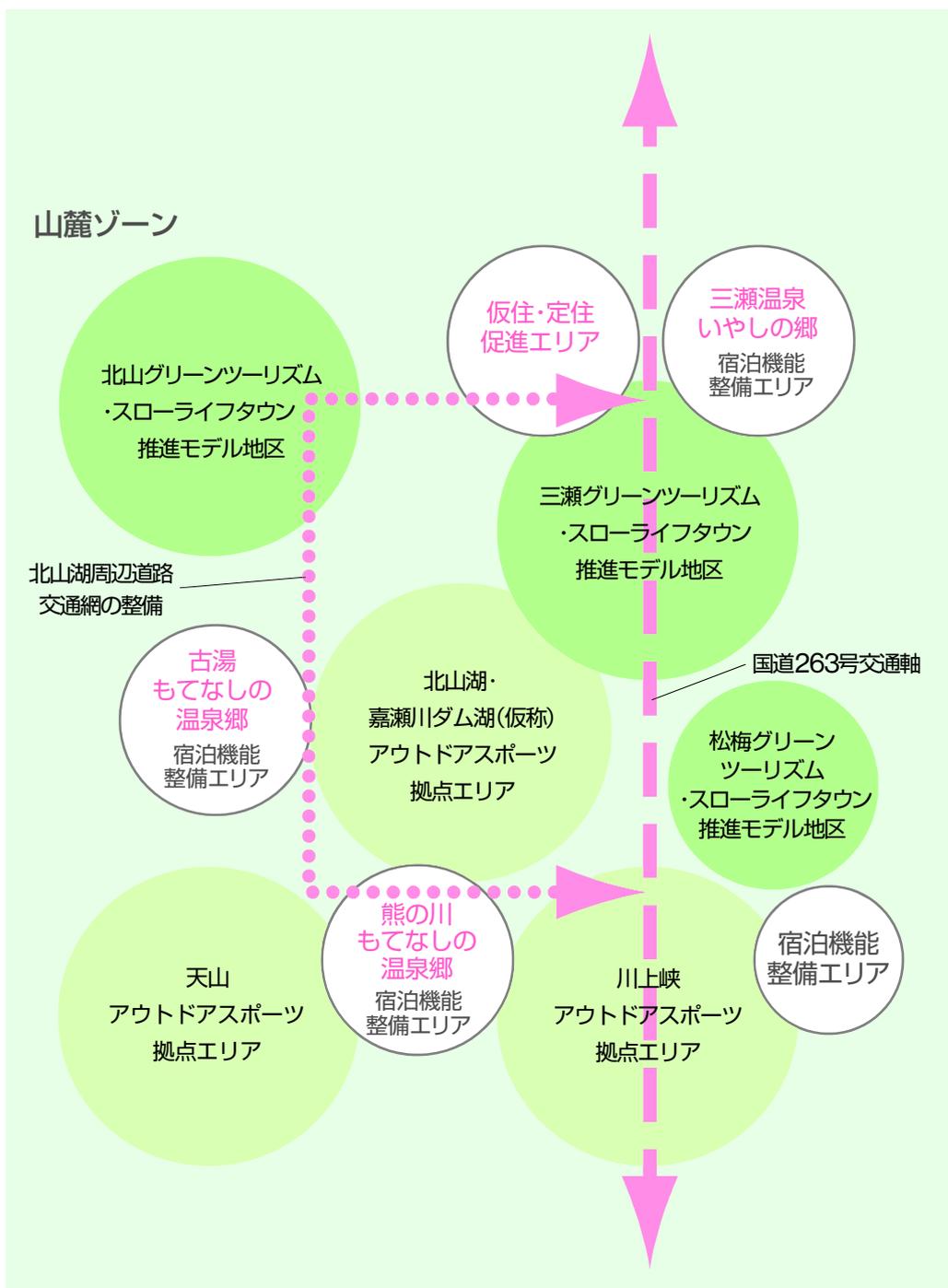
山麓ゾーンでは、福岡市の定年退職者による住宅の購入や、民間業者による別荘地の開発、空家購入を伴うUターン・Iターンなど、都市住民の季節居住や移住が散見され、今後も、ニーズの増大が見込まれることから、これらのニーズに対応できる態勢を整えることで定住人口の拡大を図ります。

■ 個別プロジェクトの概要

個別プロジェクト名	プロジェクト概要 (対応する基本事業)	推進主体
古湯・熊の川もてなしの温泉郷づくり	古湯・熊の川温泉郷について、かつて著名な作家たちが滞在した伝統ある温泉保養地のイメージを有効活用するために、山あいの温泉地としての雰囲気やサービスを磨き上げ、観光客を呼び込み、温泉地の歴史と伝統を体感できる、もてなしの温泉郷づくりを推進します。	市 関係団体
	(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり)	
三瀬温泉いやしの郷づくり	三瀬温泉やまびこの湯周辺に整備されている、やまびこ交流館やふれあい農園、炭焼き体験施設などの連携により、都会の雑踏を逃れ、大自然のなかで思い思いに一日を過ごし、心身をいやすことができる、いやしの空間づくりを推進します。	市 関係団体
	(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり)	
	(1-3-1地産地消と環境にやさしい農業の推進) (1-3-4都市と農山漁村の交流促進)	

個別プロジェクト名	プロジェクト概要 (対応する基本事業)	推進主体
アウトドアスポーツ拠点 エリアづくり	<p>嘉瀬川ダム湖（仮称）、北山湖や川上峡において、フィッシングやカヌーなどの水上スポーツ拠点、水とのふれあいを楽しめる河川公園・親水公園、湖畔・河畔の散策を楽しむ遊歩道や野鳥の森などを整備します。</p> <p>また、スキー場周辺の夏場の集客策や肥前大和巨石パークの再整備策として、ウォーキング（散策）、トレッキング（山歩き）、サイクリング（自転車の遠乗り）、フリークライミング（岩登り）など、自然を利用した健康づくりを楽しめる地域づくりを行います。</p> <p>(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (3-8-1森林環境の整備) (3-9-1水辺空間の整備)</p>	市 関係団体
グリーンツーリズムの推進	<p>北山湖周辺、松梅地区や三瀬地区などをモデル地区に指定して地区ごとのグリーンツーリズム・スローライフタウン推進計画を策定し、都市農山村交流の実行組織を育成します。農山村景観の保全・美化を図るとともに、棚田オーナー制度、果樹オーナー制度などの導入、クラインガルテン（貸し農園）、体験農園、観光果樹園、農産物直売所・加工所などを整備します。グリーンツーリズムの推進によって、豊かな農山村のイメージを確立し、農産物、加工品、工芸品等のブランド化と販路開拓を推進します。</p> <p>(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (1-3-1地産地消と環境にやさしい農業の推進) (1-3-2特色ある農林水産業の振興) (1-3-4都市と農山漁村の交流促進) (3-5-1景観形成の推進) (3-8-1森林環境の整備)</p>	市 関係団体
北山湖周辺道路交通網の整備	<p>国道263号の早期整備、嘉瀬川ダム湖（仮称）周辺に整備される国道323号や広域農道と接続する県道三瀬栗並線の整備、県道松尾湯の原線の整備、県道富士三瀬線、県道前原富士線の整備を県へ要請します。</p> <p>さらに、ダム湖畔を巡る道路の沿道については、景観の保全・美化を行い、山麓ゾーンの観光地、保養地、レジャースポットなど観光ルート化と地域イメージの向上を目的としたサインシステム（案内誘導標識群）を充実させます。</p> <p>(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (3-3-2基幹交通網の整備による円滑な移動の確保)</p>	国 県 市
宿泊機能の充実	<p>アウトドアスポーツ拠点エリアやグリーンツーリズム推進地区に、オートキャンプ場や貸別荘村、農家民宿（ファームイン）など、目的や滞在期間、予算に応じて選択できる多様な宿泊機能を整備します。</p> <p>(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり)</p>	市 関係団体
季節居住・定住の促進	<p>北山湖周辺エリアにおいて、週末居住や定年移住、Uターン・Iターンに対応できる菜園付住宅の整備や、使われなくなった農家・古民家を紹介するシステムづくりを推進させます。</p> <p>(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (3-4-3空家対策の充実)</p>	市 関係団体

■ イメージ図



第1部
将来推計

第2部
土地利用

第3部
分野別計画

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第4部
重点プロジェクト

第2章 | 医療福祉産業のまちづくり

■ プロジェクトの目的

高齢社会を迎え、すべての市民、とりわけ、高齢者・身障者・年少者などにとって暮らしやすい居住環境や社会環境の必要性が叫ばれています。

今後は、すべての市民が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、“福祉でまちづくり”をコンセプトとして、医療福祉産業の振興を図り、安全で快適な安心して暮らせるまちづくりを推進します。

本市には、医療福祉の研究拠点となる佐賀大学が立地しており、諸富地区には多様な家具製作技術を有する家具製造業が集積しています。また、山麓地域の林業地帯には、伐期を迎えたスギ・ヒノキが豊富に植林されています。

これらの地域資源を生かし、医療福祉関連の新産業を創出するとともに、生み出される新しい商品やサービスをまちづくりに生かしていくことにより、すべての市民にとって暮らしやすい都市空間・住環境の実現を図ります。

■ プロジェクトの方針

● 医療福祉産業ネットワークの支援

佐賀大学医学部地域医療科学教育研究センターや諸富地区の家具製造業などの企業、及び、素材を供給する山麓地域の林業・製材業など、医療福祉産業にかかわる地域の資源のネットワーク化を推進します。

ネットワークの総合力を生かし、すべての市民にとって住みやすい住環境の実現につながる都市、住宅、家具、設備、生活用具、生活支援等のあり方に関する共同研究や、研究成果を生かした製品の共同開発を支援します。

● 高度技術医療福祉支援の推進

すべての市民が安心して快適に生活できる社会の実現を目指し、住居や家具、設備、生活用具などの相談や個別注文、メンテナンス（維持補修）など福祉ニーズに応えられる産業形成を図るための施設の創出を支援します。

● 医療福祉関連の新規事業やベンチャービジネスの育成・支援

医療福祉関連分野は、新たなビジネスチャンスが期待できる分野であり、地域の企業による新規事業及びベンチャービジネスの育成・支援のため、医療福祉産業ネットワーク及び県内のインキュベーション機関（起業支援組織）との連携を推進し「福祉でまちづくり」のコンセプトの具現化を図ります。

● 産直バリアフリー住宅取得促進制度（仮称）の導入

山麓の林業地域では、伐期を迎えたスギ・ヒノキが豊富に植林されています。

医療福祉産業ネットワークを活用し、市民が地元産の温もりのある木材を使用したバリアフリー住宅を取得する際の支援を行うことにより、安全で快適に安心して暮らせる住宅づくりを推進します。

■ 個別プロジェクトの概要

個別プロジェクト名	プロジェクト概要 (対応する基本事業)	推進主体
医療福祉産業ネットワークの支援	<p>医療福祉産業ネットワークを創出し、高齢者や障がい者になっても住みやすい住環境の実現を目指した、都市、住宅、家具、設備、生活用具、生活支援のあり方などの共同研究・共同開発を支援します。</p> <p>(1-2-2地域ブランドの強化) (1-2-3企業誘致と新産業の創出) (1-3-2特色ある農林水産業の振興) (3-4-1快適な居住環境の充実)</p>	市 大学 事業者 関係団体
高度技術医療福祉支援の推進	<p>すべての市民が安全で快適に安心して暮らせる社会を実現するために、市民を対象として、住居、家具、設備、生活用具などの相談や個別注文、メンテナンス（維持補修）など、福祉ニーズに応えられる産業形成を図るために調査研究等を支援します。</p> <p>(1-2-2地域ブランドの強化) (1-2-3企業誘致と新産業の創出) (1-3-2特色ある農林水産業の振興) (3-4-1快適な居住環境の充実)</p>	県 市 関係団体
医療福祉関連の新規事業やベンチャービジネスの育成・支援	<p>医療福祉関連の新規事業やベンチャービジネス育成・支援を目的として、医療福祉産業ネットワーク及び佐賀県内のインキュベーション機関（起業支援組織）との連携を推進します。</p> <p>(1-2-2地域ブランドの強化) (1-2-3企業誘致と新産業の創出)</p>	県 市 大学 事業者 関係団体
産直バリアフリー住宅取得促進制度（仮称）の導入	<p>山麓地域の環境保全と林業の活性化、地域への定住促進を目的として、「産直バリアフリー住宅取得促進制度（仮称）」を導入します。</p> <p>北部で産出する木材を使用し、すべての市民が安全で快適に安心して暮らせる社会の実現に向けた、先進的な住まいを取得する市民を支援します。</p> <p>(1-3-2特色ある農林水産業の振興) (3-4-1快適な居住環境の充実)</p>	市

第1部
将来推計第2部
土地利用第3部
分野別計画

第1章

第2章

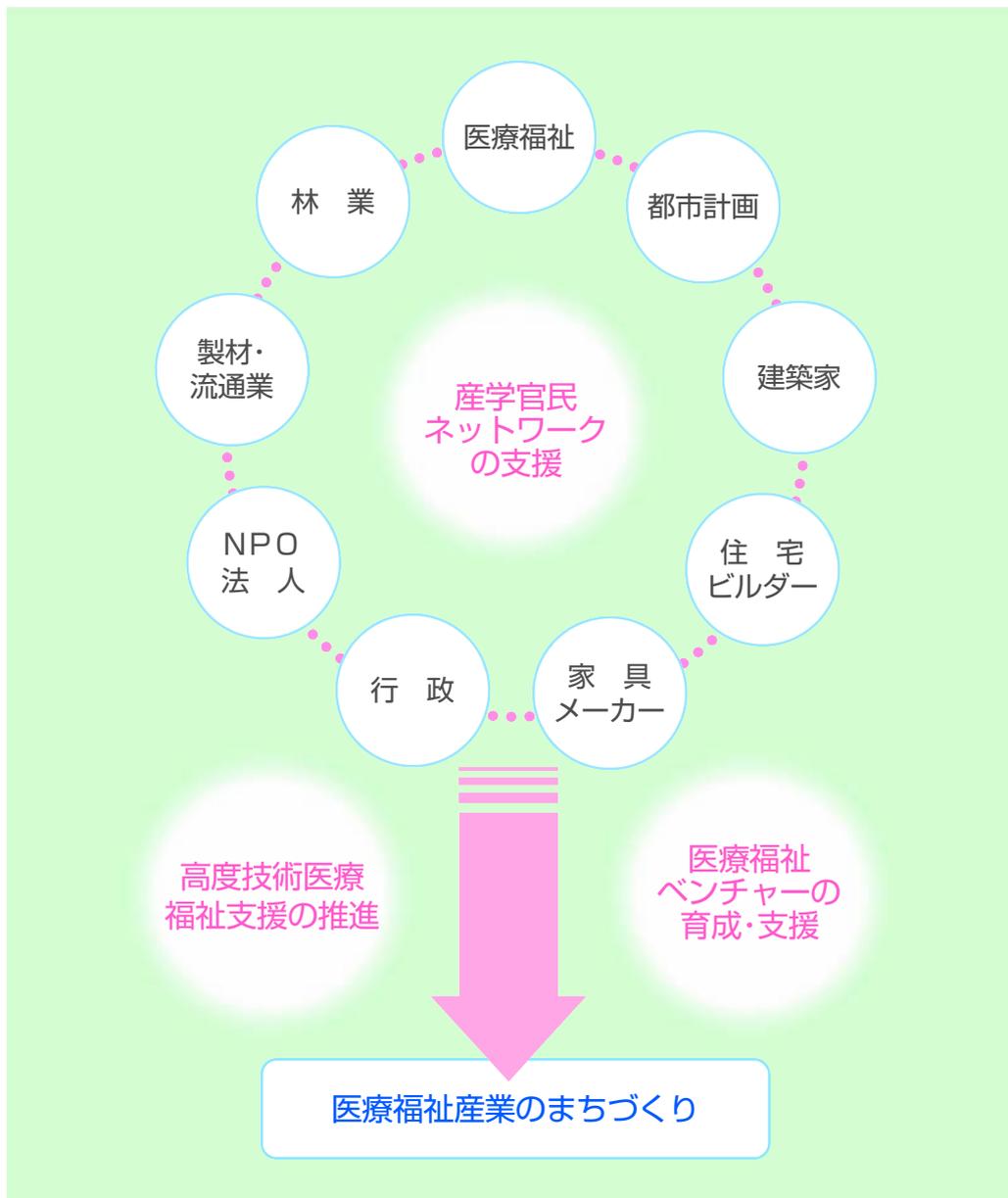
第3章

第4章

第5章

第4部
重点プロジェクト

■ イメージ図



第3章 | 佐賀城公園を生かしたまちづくり

■ プロジェクトの目的

佐賀城は、鍋島36万石の居城で、古い歴史と伝統文化に彩られた佐賀城跡とその周辺は市民の誇りであり、憩いの場として広く市民に親しまれてきました。

現在、鯨の門がある本丸跡周辺を「歴史の森」と位置付け、佐賀城本丸歴史館をはじめ、佐賀城の風格を再生し“佐賀の顔”となることを目指した公園整備が進められています。

2004年には佐賀城本丸歴史館が開館し、佐賀の新たな観光資源となっていますが、本地区の観光資源としての潜在力はまだ十分に生かされていません。

そこで、佐賀城本丸歴史館の開館を機に、地区に点在する観光資源の魅力にさらに磨きをかけ、佐嘉神社、松原マーケット、徴古館周辺の整備を進めて、佐賀城公園と柳町地区を結ぶ地区の一体的な整備を行うことにより、中心市街地の活性化を図ります。

■ プロジェクトの方針

● 佐賀城公園の整備・活用

佐賀城公園を本市の観光拠点と位置付け、「歴史の森」や佐賀城本丸歴史館の利用・活用を図るとともに、佐賀城下再生百年構想に基づき、佐賀城公園整備事業を県とともに推進します。

● 柳町地区の整備・活用

長崎街道の歴史的雰囲気の色濃く残り、都市景観形成地区の指定をしている柳町地区との連携により新たな観光ルートの確立を図ります。

● 都市景観形成事業の推進

自然環境や都市施設等と調和のとれた歴史的な都市景観の形成・保全に努めます。

● 商業分野の人材育成・店舗誘致の支援

経営の情報化や効率化が立ち遅れている小売業者に対して、顧客・資金管理・販売計画・消費者動向など店舗経営のための研修を実施し、中心商店街への参入を促進するための開業支援を行います。

また、集客力を有する魅力ある個店を誘致するための支援を実施します。

● 都市施設等の整備

快適空間を演出するための老朽化した施設の再整備や、移動の利便性を確保するための高齢者や身障者に優しい設備の整備を図ります。また、来街者の利便性を考えた交通アクセスの改善策として駐輪場などの整備を行います。

● 中心市街地の基盤整備

佐賀城公園と柳町地区を結ぶ快適な動線を整備し、回遊性のある基盤整備を行うことにより、来街者の利便性の向上や市街地への市民の定住化、回帰を誘導し、中心市街地の活性化へつなげていきます。

第1部
将来推計第2部
土地利用第3部
分野別計画

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第4部
重点プロジェクト

■ 個別プロジェクトの概要

個別プロジェクト名	プロジェクト概要 (対応する基本事業)	推進主体
佐賀城公園の整備・活用	<p>城内及び周辺地区を対象地域とする「佐賀城下再生百年構想」のもと、“県立佐賀城公園整備事業”を県とともに推進します。</p> <p>また、佐賀城公園と雰囲気のあった快適な周辺空間の形成を図るため、歴史的遺産と調和した環境整備に努めます。</p> <p>さらに、当該地区における市としての佐賀城整備活用についての方向性を確立するとともに、市の観光拠点として位置付け、佐嘉神社、松原マーケット、徴古館周辺の整備を推進します。</p> <p>(1-4-5基盤整備と施設運営) (3-5-1景観形成の推進) (3-6-1緑化活動の推進)</p>	県 市 関係団体
柳町地区の整備・活用	<p>歴史民俗館を中心とし、他の観光資源と一体となった拠点整備を進めます。その整備については、展示だけでなく体験型施設を含む整備を検討します。</p> <p>(1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (1-4-5基盤整備と施設運営) (3-5-1景観形成の推進)</p>	市 関係団体
都市景観形成事業の推進	<p>佐賀城周辺については、佐賀のシンボルゾーンとして景観の形成・保全に努めます。</p> <p>また、長崎街道については、景観形成地区指定や重要建築物等の指定物件などを中心に、拠点的・個別的に景観の保全に努めます。</p> <p>(3-5-1景観形成の推進)</p>	市 関係団体
商業分野の人材育成・店舗誘致の支援	<p>小売業者に店舗経営のための研修を実施し、中心商店街への参入を促進するための開業支援を行います。</p> <p>また、佐賀城から柳町地区を結ぶ動線沿いに集客力を有する魅力ある個店を誘致するための支援を実施します。</p> <p>(1-2-1既存商工業の経営支援) (1-4-2魅力ある店舗・拠点施設の整備)</p>	市 関係団体
都市施設等の整備	<p>快適空間を演出するための老朽化した施設の再整備を行い、高齢者や身障者に優しい設備の整備を図ります。</p> <p>また、来街者の利便性を考えた交通アクセスの改善策として駐輪場などの整備を行います。</p> <p>(1-4-5基盤整備と施設運営)</p>	市 関係団体
中心市街地の基盤整備	<p>中心市街地の健全な発展と秩序ある整備を図り、地域と行政が協力してまちづくりを展開します。</p> <p>(1-4-1街なか居住の推進) (1-4-2魅力ある店舗・拠点施設の整備)</p>	国 県 市 市民 関係団体

■ イメージ図

「歴史の森」整備計画のイメージ図



第1部
将来推計

第2部
土地利用

第3部
分野別計画

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第4部
重点プロジェクト

第4章 | 有明干潟エコツーリズムのまちづくり

■ プロジェクトの目的

有明海に面する豊かで個性的な自然環境に恵まれた南部地域の振興にあたっては、素晴らしい地域資源を守り育て、新たな観光交流資源として、地域の活性化や産業育成に結びつけていく方を推進していく必要があります。

南部地域には、森林公園や昇開橋展望公園、有明佐賀空港公園、干潟よか公園、佐野記念公園などが整備されていますが、それらには、統一的なコンセプトがなく、また、干潟の動植物の保護活動や環境教育と、潮干狩り・海釣りなどの観光資源についても有機的な連携は行われていません。

そこで、有明海の干潟に面する南部地域の豊かな資源を生かし、面白く楽しく遊びながらエコロジー（生態系）について学ぶ「エコツーリズム」をコンセプトとして、各種施設を連携させ、新しい観光交流エリアの創出を目指します。

■ プロジェクトの方針

● 干潟エコツーリズムセンター（仮称）の整備

干潟の環境保全や利活用をテーマとした調査・研究開発、普及活動を行う干潟エコツーリズムセンターを設置します。

● 干潟エコツーリズムボランティアの育成

干潟エコツーリズムセンターを拠点として、干潟に棲む生物や海浜植物、渡り鳥などについて、その保護やエコツーリズムへの活用などについて講習会を実施します。同時に「干潟エコツーリズムボランティア制度」を立ち上げ、講習会の修了者を中心に希望者を登録、干潟よか公園をはじめとする有明海沿岸エリアを訪れる観光客の案内や観察会、保護活動など環境学習イベントの企画・実施など、一般市民の自発的なエコツーリズム活動の誘発に努めます。

● 有明海沿岸の観光振興

有明海沿岸の南部地域において観光レジャーとして行われてきた潮干狩りや海釣り、筑後川昇開橋、佐野記念公園や干潟よか公園、さらに大川や柳川の観光資源と連携した広域的な観光の振興を図ります。また、有明海沿岸部の観光振興にとって、有明海沿岸道路の役割が大きいことから、有明海沿岸道路の整備推進を求めています。

● 「有明干潟エコパーク（仮称）」の整備

これまで整備が行われてきた有明海沿岸に立地する公園などの施設をエコツーリズムという観点から再点検し、活用策を検討します。

■ 個別プロジェクトの概要

個別プロジェクト名	プロジェクト概要 (対応する基本事業)	推進主体
干潟エコツーリズムセンター（仮称）の整備	<p>東与賀町に整備された干潟よか公園内に、干潟の環境保全や利活用をテーマとした調査・研究会開発、普及活動を行う干潟エコツーリズムセンター（仮称）を設置します（WWFや佐賀大学等との連携を図る）。</p> <p>センターには、面白く、楽しく、遊びながら干潟の環境保全や利用・活用について学べる展示・学習施設を整備します。</p> <p>(3-6-2公園の整備) (3-10-2自然環境保全活動の推進) (3-10-4環境教育の推進) (4-4-1多様な学習機会の提供) (4-4-2生涯学習施設の整備・運営)</p>	市 関係団体
干潟エコツーリズムボランティアの育成	<p>干潟エコツーリズムセンターを拠点として、干潟に棲む生物や海浜植物、渡り鳥などについて、その保護やエコツーリズムへの活用などについて講習会を実施します。同時に「干潟エコツーリズムボランティア制度」を立ち上げ、講習会の修了者を中心に希望者を登録、干潟よか公園をはじめとする有明海沿岸エリアを訪れる観光客の案内や観察会・保護活動など環境学習型イベントの企画・実施など、一般市民の自発的なエコツーリズム活動の誘発に努めます。</p> <p>(1-1-1情報の効果的発信) (1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (1-1-3観光意識の啓発・醸成) (3-10-2自然環境保全活動の推進) (3-10-4環境教育の推進) (5-1-1協働の仕組みづくり) (5-1-2活動団体等の支援)</p>	市 関係団体
有明海沿岸の観光振興	<p>潮干狩り、海釣り、佐野記念公園、筑後川昇開橋、干潟よか公園、柳川の川下りといった有明海沿岸の観光資源のネットワーク化による観光開発を進めます。また、有明海沿岸部の観光振興にとって、有明海沿岸道路の役割が大きいため、有明海沿岸道路の整備推進を求めていきます。</p> <p>(1-1-1情報の効果的発信) (1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (1-3-2特色ある農林水産業の振興) (1-3-4都市と農山漁村の交流促進) (1-3-5水産業経営環境の改善) (3-3-2基幹交通網整備による円滑な移動の確保)</p>	国 県 市 関係団体
「有明干潟エコパーク（仮称）」の整備	<p>有明海沿岸エリアに整備されている森林公園や有明佐賀空港公園、昇開橋展望公園、佐野記念公園、干潟よか公園などを、エコツーリズムという視点で見直しを行い、展示施設や活動拠点など活用策を検討します。また、有明海沿岸地域の農産や海産の特産品直売所の充実を図ります。</p> <p>(1-1-1情報の効果的発信) (1-1-2効果的な基盤整備と仕組みづくり) (1-3-2特色ある農林水産業の振興) (1-3-4都市と農山漁村の交流促進) (1-3-5水産業経営環境の改善) (3-5-1景観形成の推進) (3-6-2公園の整備) (3-10-4環境教育の推進) (4-4-1多様な学習機会の提供) (4-4-2生涯学習施設の整備・運営)</p>	県 市 関係団体

第1部

将来推計

第2部

土地利用

第3部

分野別計画

第1章

第2章

第3章

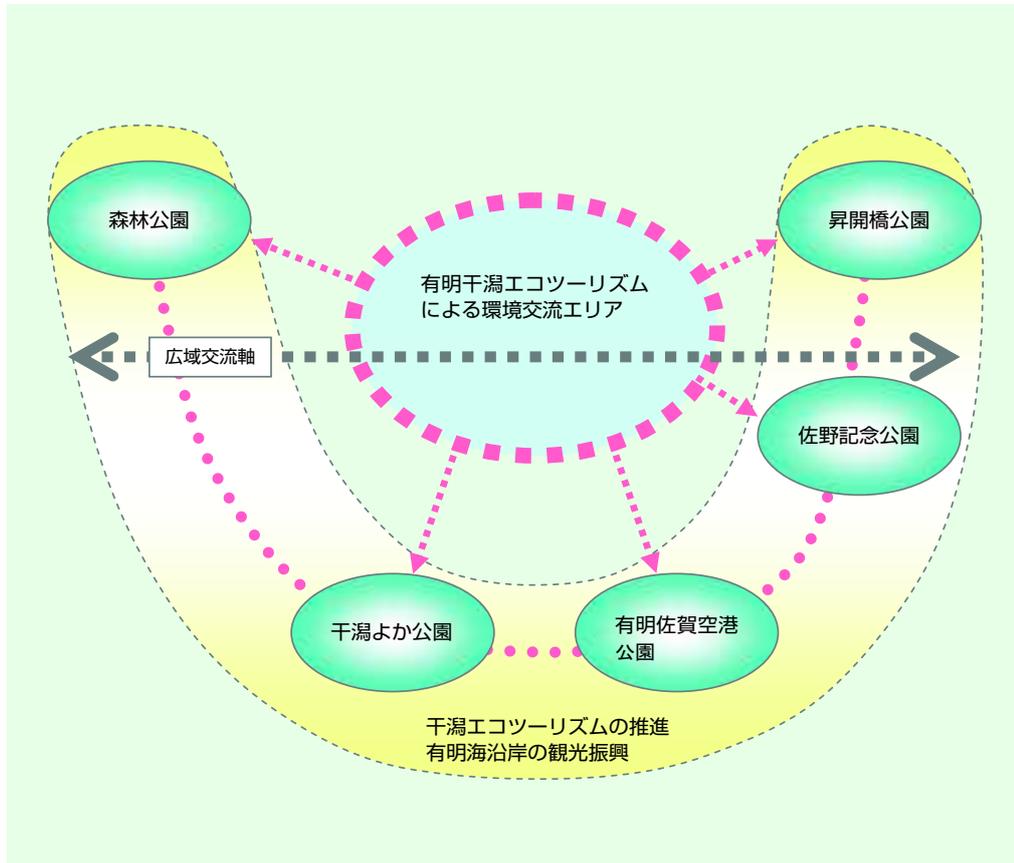
第4章

第5章

第4部

重点プロジェクト

■ イメージ図



第5章 | IT(情報通信)戦略でまちづくり

■ プロジェクトの目的

インターネットが急速に普及するにつれて、高速大容量の光ファイバー網やCATV網等のブロードバンドの情報通信基盤の整備が全国的に進んでいます。

いまや高速大容量で常時接続できる情報通信基盤は、市民生活や企業活動に不可欠なものとなっていますが、地方都市における情報通信基盤の整備状況は、大容量高速通信網の整備が進んでいないのが現状です。

本市では、情報通信基盤の充実を図るとともに、これを利用するIT(情報通信)産業の誘致を行い、産業振興策の一つとして取り組んでいきます。

■ プロジェクトの方針

● 情報通信基盤の整備

情報通信基盤は、通信事業者の回線を利用することを基本としますが、市街地の街区によっては基盤整備の状況に温度差があるため、市街地や拠点地区において計画的、重点的に情報通信基盤の整備充実を図るための施策展開を行います。

● 情報関連企業の誘致

雇用創出を図るため、サポートセンターなどネット関連企業の誘致を推進します。

■ 個別プロジェクトの概要

個別プロジェクト名	プロジェクト概要 (対応する基本事業)	推進主体
情報通信基盤の整備	光ファイバー、CATV、ADSL等の高速・超高速ネットワーク環境の整備を行う民間事業者等に対し、整備支援事業を行います。	市 事業者
	(1-2-3企業誘致と新産業の創出)	
情報関連企業の誘致	サポートセンター等のIT(情報通信)関連企業の誘致を図ります。	国 県 市 事業者
	(1-2-3企業誘致と新産業の創出)	

第1部
将来推計第2部
土地利用第3部
分野別計画

第1章

第2章

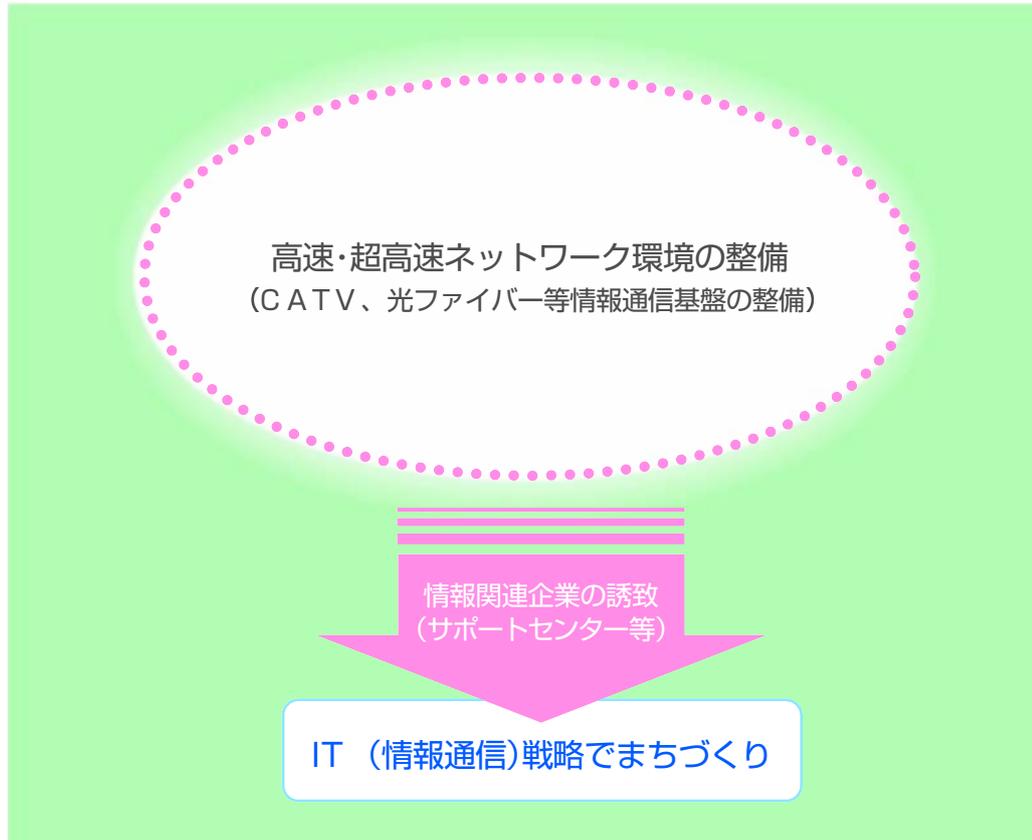
第3章

第4章

第5章

第4部
重点プロジェクト

■ イメージ図





第1部
将来推計

第2部
土地利用

第3部
分野別計画

第1章

第2章

第3章

第4章

第5章

第4部
重点プロジェクト

